

2003 年度 委員会活動成果報告

(平成16年 4月 1日作成)

委員会名	痴呆性高齢者グループホーム小委員会	主 査 名：足立 啓
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部 岑生
設 置 期 間	2000年 4月 ~ 2004年 3月	
設 置 目 的 各年度活動計画	年次急増する痴呆性高齢者グループホームにおけるケアと生活環境の実態・問題、およびサービス評価、国内の痴呆性高齢者の施設評価の適正について把握し、痴呆性高齢者グループホームの望ましいケア・環境について検討する。	
委員構成 (委員名(所属))	児玉桂子(日本社会事業大学 社会福祉学部) 足立 啓(和歌山大学 システム工学部環境システム学科) 狩野 徹(岩手県立大学 社会福祉学部) 中 裕一郎(名古屋女子大学 家政学部) 石井 敏(東北工業大学 建築学科) 橘 弘志(実践女子大学 生活科学生活環境学科) 赤木徹也(工学院大学 工学部建築学科) 林 悦子(東京都老人総合研究所) 巖 爽(東北大学) 鈴木健二(鹿児島大学) 松原茂樹(大阪大学) 影山優子(日本社会事業大学社会事業研究所)	
設置 WG (WG名:目的)	痴呆性高齢者グループホームの事例、評価指標について文献・資料収集を行い、グループホームの事例集を作成する。	
2003年度予算	308,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	年5回程の委員会を開催し、参加は毎回10名前後、多い場合は15名程の参加状況であった。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>4年間に渡る委員会の開催によって達成した成果は、下記の通りである。</p> <p>2000年の介護保険による制度化に伴い急増する痴呆性高齢者グループホームに関する調査・研究および全国の事例調査などにより、グループホームの生活環境、運営、ケア、サービス評価・環境評価などについて実態を把握し、それらに関連する問題・課題について検討を行った。</p> <p>最近新築され、参考となるグループホームの見学会を実施した(名古屋)。</p> <p>毎年年度末に、委員会の総括として、シンポジウムあるいは公開研究会(下記参照)を開催し、建築および運営者側、行政関係者を講演者に招き、グループホームの現状と課題、今後の方向について議論を行い、今後の適正な普及に際しての課題、望ましいグループホームのあり方について検討した。</p> <p>シンポジウム、公開研究会開催当日は、グループホームの事例集および最新の法制度や施策などの資料を作成し配布した。</p> <p>2001年3月 シンポジウム「グループホームの現状と今後の方向」</p> <p>2002年2月 公開研究会「グループホームの現状と課題」</p> <p>2003年3月 公開研究会「普及期におけるグループホームの課題」</p> <p>2004年2月 シンポジウム 地域に根ざす高齢者の居住とケアを考えるシリーズ 「痴呆性高齢者ケア環境における今後の展望」</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>当初の活動計画における目的をほぼ達成できたといえる。見学会や毎年継続的に実施したシンポジウムや公開研究会を通して、行政や実践の場における最新の動向や実態・問題点、今後の課題について見いだすことができ、学会側からは建築サイドの実態、問題点を明らかにし、ケア・環境づくりにおける今後の課題・留意点などについての知見を報告することができた。</p>

その他評価すべき事項	社会的ニーズの変化に即したテーマに基づいて、毎年シンポジウムや公開研究会を実施し、最終年は、委員会で取り組んだ成果物として、適正なグループホームの普及に向けた事例集を作成して配布を行った。
------------	--